

	年		組		番		名前	
--	---	--	---	--	---	--	----	--

教材 1 - A - (2) 古代から中世までの社会の様子

次の(ア)～(コ)の説明はどの時代の様子を示したものを、【表】の中の①～⑨から選び、記号で答えなさい。

【表】

① <small>じょうもん</small> 縄文	② <small>やよい</small> 弥生	③ <small>こふん</small> 古墳	④ <small>あすか</small> 飛鳥	⑤ <small>なら</small> 奈良	⑥ <small>へいあん</small> 平安	⑦ <small>かまくら</small> 鎌倉	⑧ <small>なんぼくちょう</small> 南北朝	⑨ <small>むらまち</small> 室町
------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------

【社会の様子】

(ア) 各地の武士が北朝と南朝に分かれて戦い、約60年にわたって全国的な内乱が続いた。

(イ) 貴族が力を伸ばし、ふじわらし藤原氏が自分の娘を天皇のきさきとし、その子を次の天皇にたてることで勢力を伸ばした。

(ウ) 中・小型の動物や魚・貝、ドングリを主な食料とし、土器をに た煮炊きに使い、同じ場所にむらをつくって暮らすようになった。

(エ) 新しい都として平城京がつくられ、天皇を中心にりつりょう律令に基づいた政治が行われたが、重い負担によりとうぼう逃亡する農民が現れ、こうちこうみん公地公民の原則が崩れていった。

(オ) 平氏を滅ぼしたみなもとのよりとも源頼朝が幕府を開いて武家政権を立て、武士による政治が行われるようになった。

(カ) 稲作が伝わると、土地や水をめぐる争いから、むら同士の戦いがおこるようになり、むらの指導者の中には、戦いで周りのむらを従えて小さな国をつくる者も現れた。

(キ) かんいじゅうにかい冠位十二階やじゅうしちじょう十七条のけんぽう憲法を定めるなど、天皇を中心とする国家の仕組みを中国や朝鮮にならって整えようとした。

(ク) おおきみ大王を中心に、きんき近畿地方の有力な豪族で構成された大和朝廷が、やまとちやうてい東北地方南部から九州地方にかけて支配を広げていった。

(ケ) 有力な守護大名が力を持つようになり、幕府の力が地方まで及ばなくなる一方、産業や商業の発達を背景に、都市や農村で自治が行われるようになった。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)

	年		組		番	名前	
--	---	--	---	--	---	----	--

教材 1-A-(3) 「古代の日本の様子」

表のア～エにあてはまるものを、下の①～④からそれぞれ選び、記号で答えましょう。

古代のおもなできごと

- ① 天智天皇が亡くなると、あとつぎをめぐる争いから壬申の乱が起こった。
- ② 中大兄皇子や中臣鎌足らは蘇我氏をたおし、大化の改新を行った。
- ③ 有力な貴族や僧の勢力争いがおき、政治が乱れたため、現在の京都に平安京をつくり、政治を立て直そうとした。
- ④ 朝廷は、墾田永年私財法を出し、新たに開墾した土地であれば、開墾した者が永久にその土地を所有することを認めた。

表

	古い → 新しい				
できごと	ア	イ	大宝律令とよばれる法律が作られた。	ウ	エ

【答え】

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---